

フランス兵士追悼記念式、及び説明板除幕式 - 比治山陸軍墓地内フランス人墓地
訳文 在京都フランス総領事スピーチ 2021年11月19日(金)

ご臨席の皆様、
フランスの友人の皆様

私は、いつの時も広島を訪問できますことを大変嬉しく思います。しかし、本日は特別でございませう。在日フランス大使館軍事部より副武官のニコラ・ピエルソン氏、フランス戦没者記憶協会日本代表マチュー・セゲラ氏と共に、20世紀のはじめに祖国から遠く離れたこの地で、祖国のために亡くなられた7名のフランス人水兵がここに眠っていることを記した「説明版」の除幕式に参列するために参りました。よって、本日の広島訪問は、私にとりまして非常に感動的なものとなりました。

祖国、フランスのために命を落としたフランス人兵士のお墓に参じ、黙祷を捧げる、それは大変感動的なことであります。私は、フランス国内だけではなく、多くの国々の墓地を御参りいたしました。命を落としたフランス兵士の悲しい運命に哀悼の意を、そして、祖国のために尊い犠牲になるやも知れず、戦場へ赴いた彼らの勇気に感動を覚えます。現在も、命をかけて我々の自由を守る兵士、特にアフリカのサハラ砂漠の南側に広がるサヘル地域でのテロの脅威に立ち向かう兵士に感服し、感謝の意を表します。1963年以降、フランス国外での活動で約800名のフランス人兵士が命を落としています。

この広島では、7名のフランス人水兵が眠るここ比治山の海を見下ろす絶景に心を打たれます。広島日仏協会様、特に、この兵士の存在を歴史の風化から常に守り続けていただき、そして、本日、7名のフランス人水兵がここに眠るに至る経緯を説明する「説明板」の設置により、彼らの存在に再び光を当てていただいた原野教授に心より感謝の意を表します。

19世紀の終わり、清朝の勢力は弱まり、敗北を重ね列強国に外国人居留地を認めざるを得ない状況となり、1899年に「義和団の乱」が起こり、1900年6月、北京の公使館襲撃で頂点に達します。この事態は、8カ国連合軍(フランス、日本を含む)の北京進出に至ります。この戦争の後方支援基地として、長崎には軍事病院が設置され、広島でも負傷者を受け入れて頂きました。そして、ここ広島では7名が負傷、または病で命を落としたのです。明治政府は、彼らの最後の場所として祖国につながる、海に面したこの絶景の地を選んだのでした。

日本には、フランス人兵士の眠る墓地が数多くあります。これは、不穏な1930年代まで日

仏両国は長い間同盟国であった証であります。私の管轄である西日本でも、長崎、また神戸でもフランス人水兵は1世紀以上にわたり眠っています。神戸では先週、約80名の方々にご参列いただき「第一次世界大戦終戦記念、戦没者追悼式典」を執り行いました。敦賀、広島、門司、そして沖縄の名護にも墓地がございます。その墓地を訪れる度に、おおげさではなく皆様に素晴らしい管理、維持をしていただいておりますことに驚いております。現地の地方自治体の皆様、名誉領事様、日仏協会の皆様、フランス戦没者記憶協会の代表の方々が、在京都フランス総領事館、在日フランス大使館軍事部と連絡を取りながらフランス人水兵のお墓のお世話をしていただいております。フランス政府の名におきまして皆様のご尽力にこの場で心より深く感謝申し上げます。

ご臨席の皆様、フランスの友人の皆様、

本日の除幕式の発端は100年以上昔にさかのぼります。これは、日仏の絆の根源であります。この深い根源は、気まぐれな歴史に翻弄されますが、長年にわたり信頼関係を増大させ、日仏の両国は「特別なパートナーシップ」を築き上げました。この「特別なパートナーシップ」は防衛の分野で大変活動的でございます。約10日前、フランス海軍の監視飛行機ガーディアンは日本の航空自衛隊の基地より黄海の監視のミッションを遂行いたしました。今年の5月に、日仏は優先課題であるインド太平洋地域での安全保障のため、米国、オーストラリアとの共同訓練「ARC21」に参加しました。フランス海軍からは強襲揚陸艦「トネール」とフリゲート艦「シュルクーフ」の2隻が参加しています。インド太平洋地域には165万人のフランス人が5つの海外領土に住み、進出しているフランス企業は7000社、事前配備部隊の軍人8300人が駐留しています。

この120年の時間の隔たりは、本日の集いの根源となった出来事と現在の我々はかけ離れたものとなりました。悲惨な戦争の前の時代、帝国主義の絶頂を迎えた20世紀、そして、すべての覇権を排除し、法の支配による多国間秩序の今日。他の国々と共にこの多国間秩序を保護するために、特にこのインド太平洋の地域で日仏は共同で取り組んでいます。

お分かりいただけましたでしょうか。我々の歴史には未来があります。

ご清聴有難うございました。